

2024年度 池上どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

児童福祉法及び保育所保育指針をすべての基礎とし、どろんこ会グループの理念、保育方針、運営本部ミッション及び、大田区の「大田区幼児教育更新プログラム〈改訂版〉」に沿って、子どもの最善の利益に考慮し、保育の専門性を備えた組織として子ども一人ひとりの育ちや保護者を支えるべく、日々学び努めていく。

保育理念 「にんげん力。育てます。」

・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動してみる思考”を育みます。

保育目標 センス・オブ・ワンダー

・自然の中に沢山足を運び、自然の中での発展から、生死などの環境認識を。

人対人コミュニケーション

・「物おじせず誰とでも目を見て話ができる子ども」を育成する。

施設運営方針

- ① 全拠点が生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとなる
 - ② 守る支援・矯正する支援を終え、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する
 - ③ 自律に向けて施設長は適正な次月のシフトを作成し、課長は確認、修正、承認を20日までに実施する、また予告なしの内部監査を行い、いつでも質の高い園となる
- スローガン：「あなたはどうか」 大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を多角的にとらえ、適切な援助を考える
	実践予定内容	・子どもの姿から計画や援助を考えるにあたり、子ども感や保育感、必要な情報や事実を見つける力と共有する力を園内外の研修や日頃の職員同士の会話の中で身に着けていく。 ・発達に合わせた援助をドキュメンテーションなどから振り返り、随時見直しを図る。
2	計画・ねらい	子ども自身が周囲の環境に働きかけ、生活を作っていく
	実践予定内容	・自身で自身の所属するコミュニティを良くするために、異年齢、同クラス、様々な形態での話し合いの場を設ける。 ・クラスの垣根を越え、職員同士が子どもに合わせて動ける柔軟な関係性作りを行う。また、子どもも年齢で分けるのではなく、個々の発達や子どもの興味や関心に合わせて活動を行っていくよう努める。
3	計画・ねらい	保育士・栄養士・用務など、全職員で充実したチーム保育を行う
	実践予定内容	・子どもに必要な活動等を全職員が個々に考え、提案実行を行っていく。 ・いつどのクラスに入っても、子どもの発達に合わせた援助ができるようにクラス交換の機会を用意し、自身や担当クラスでの援助の見直しも考え

		ていく。 ・自身で考え、その後に同僚、リーダー、主任や施設長に相談するなど、全員が考え続ける集団となり、より良い保育を行うように努める。また、職員の心身の健康にも十分考慮し、効率的に職務に当たるようにする。
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日頃から保護者とのコミュニケーションを通じ信頼関係を築き、相談・助言を求めやすい、開かれた園づくりを行っていく
	実践予定内容	・登園時、降園時の丁寧な対応 ・ケガや健康面に関しての、保護者、スタッフの情報共有、相互理解 ・園生活のみならず、家庭においての子育て、しつけ、遊びに関しても、求めに応じて個人面談の場を設ける
2	計画・ねらい	園生活や子どもの理解を深めていただくために保育内容の可視化
	実践予定内容	・ドキュメンテーション日誌、各クラスの月間活動 ・クッキング、畑活動などのポートフォリオを掲示することで保育の可視化を行う
3	計画・ねらい	実際に園行事や保育参加をしていただくことで、園での実生活を体験して頂き、理解や関心を高めていく
	実践予定内容	・園行事や保育参加への積極参加の呼びかけを行う。 ・保育内容や園行事を事前に知らせる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園の取り組みを地域に発信し、園や法人の活動の認知を広げる
	実践予定内容	・商店街ツアーでお世話になっている店や町内会の掲示などにより広く園のとりくみや行事を知らせていく。 ・ブログ、SNSなどにより保育活動を発信していく。
2	計画・ねらい	青空保育により近隣の方に保育に対する興味、関心を持っていただく
	実践予定内容	・月1回 佐伯山緑地にて実施
3	計画・ねらい	園見学や園庭開放等、園に足を運んでいただく
	実践予定内容	・青空保育時にちきんえっぐ、子育て支援活動を知らせていく。 ・園入り口に行事予定を掲示する。 ・ちきんえっぐ 毎週水曜日実施 ・子育て相談随時実施

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標や個人のMBO達成に向けて、取り組みを明確化していく
	実践予定内容	・園会議等で目標への達成度や取り組みを共有する機会を用意する。 ・ピラミッド構造の組織として、リーダー、主任、園長が職員と振り返りを行う機会を用意し、個々の成長を組織全体で支える。
2	計画・ねらい	基本方針に沿って、園内研修の中で様々なアクティビティを使用し、トライアル&エラーしながら保育を実行し検証をしていく
	実践予定内容	・基本方針や園目標に向かって、全職員でチームとしての保育や計画がで

		<p>きているかを子どもの姿を追いながら検証していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーション等可視化する技術や知識を身に付け、円滑に園会議や研修、話し合いを行っていけるように努める。
3	計画・ねらい	法人内外の研修や交換研修を実施し、子ども理解、保育や保護者支援のスキルアップを図る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内外の園や施設との交流の中で、保育の形態や環境、子どもを見る視点を養う。 ・課題点も見出し、全スタッフで検討していく機会を設ける。様々なアクティビティを用い、課題抽出や解決にあたる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑の改良
	実践予定内容	土づくりにこだわり、質の高い野菜作りを行う。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践予定内容	・自作のコンポストで、野菜ごみ、落ち葉、ヤギの糞を堆肥に変え再利用する。
3	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化
	実践予定内容	自然や身近な自然現象に触れ合う中で、起床や環境等に興味を持つ。

〈6〉子どもの人権を尊重した関わり

1	計画・ねらい	丁寧な保育の基本を徹底する
	実践予定内容	・子どもに対して援助を行う際、子どもに言葉を掛け安心感の中で生活を送ることができるようにする。
2	計画・ねらい	子どもの表現や言論の自由を守る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話を最後まで聞く姿勢や対話を行うことで、より子どもから発信したくなる雰囲気を作る。 ・大きな声で呼んだり、指示を出すことで子どもに圧が掛からない様、子どもが話を必要としているタイミングを見極め、話しかけたり、問いかけを行っていく。
3	計画・ねらい	活動やドキュメンテーションを子ども達と振り返る
	実践予定内容	活動やドキュメンテーションを振り返り、その時子どもはどう思ったのか、振り返った後子どもたちは何をしたいのかを表現し、子ども自身で見通しや期待を持てるように援助していく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	10人	12人	15人	15人	15人	67人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	0人	調理	0人	事務	0人
	用務	1人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	コンピテンシー、行事確認、連絡事項、討議事項など
給食運営会議	月1回	運営マニュアルに則り、旬な課題を協議（SDGs、畑仕事、保育士との連携も含む）
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月間のヒヤリハット、インシデントを分析・検証 特に検証しなければならない事例は時系列にて職員の連携、役割分担のさらなる明確化を図る。 ・他園の事案を自園に活かし未然に事故の防ぎ方を周知する。 ・旬な項目（SDGS, プール遊び、感染症、下痢嘔吐など）
ケース会議	月1回	個別配慮児の状況及びスタッフの関わり方の確認、職員の意識統一

クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、園児の姿の共有
週案会議	週1回	保育の計画と振り返り、園児の姿の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題討議、連絡、共通認識事項の確認
施設長勉強会	月1回	法人全体での課題討議・施設長のスキルアップ
食育会議	年4回	法人全体での課題討議・栄養士、施設長のスキルアップ
保健会議	年4回	衛生、感染症ガイドライン・取り組み報告・改善
主任会議	年4回	主任のスキルアップ
子育ての質を上げる会議	月1回	保育スキルのアップ

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の安全管理や備品などの管理・衛生点検
安全対策係	避難訓練・環境安全整備
防火管理者	避難訓練の立案・実施・反省
食品衛生責任者	食材の衛生管理・在庫確認と管理
畑係	畑の管理・栽培計画
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と共同で、行事内容の計画と進行

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、養護の大切さを認識し、子どもに共感する中で、安心して園生活が送れるようにする。特に丁寧な養護的関わりに重きを置き、子どもに応答的な対応を行うようにする。 一人ひとりの子どもの発達状況を的確にとらえ、応答的な対応をする中で、子どもが自ら育とうとする力を援助する。 子どもの興味・関心を尊重し、自ら見つけた遊びやセンス・オブ・ワンダーを十分に経験させる。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 物、人と自ら関わろうとする姿を大切にしながら、満足感や充実感が得られるような生活や遊びを大切にする。 他児や周囲の人への関心が高まる時期と捉え、自我の芽生えを十分に培う。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけ、自主的に身の回りのことに取り組む。 保育園生活に楽しみや期待を持ち、見通しを持って生活を送ることが出来るようになる。 友だちや異年齢の子どもたち、保育者との触れ合いを通して、人との関りやコミュニケーションを身につけ、できないことは助けを求めなど自立を図る。 文字や数字、社会事象や自然に興味関心を持ち、深めていくことができるように対話的に関わる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが生活や遊びに主体的に関わりながら、思考、判断の経験や力を育み、子どもが能動的に園生活を行えるよう、全職員は柔軟に対応をするように努める。 生活や遊びを振り返りながら、自身や友だちと次の活動に向けた見通しを立てる。 異年齢保育の中で様々な活動や経験を行い、自分のできることに自信を持ち、進級や進学への期待を持つ。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	6月21日と11月22日に実施予定

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べたいときに、食べたい場所で、食べただけ食べられるような環境作りを行い、食事の時間を楽しめるようにする
	実践予定内容	・縁側給食の実施 ・バイキング形式の配膳の実施
2	計画・ねらい	子どもと一緒に食に関わる活動を日々継続的に実行していく
	実践予定内容	・子どもたち自身で栽培、収穫、クッキングに携わっていくような連続性のある取り組みを行っていく。 ・栽培計画に基づき、クッキングを行っていく。
3	計画・ねらい	保育士、栄養士は一体となり、専門性を活かして「食を営む力」を育むために計画と振り返りを行う
	実践予定内容	園会議等で食育のドキュメンテーションを通して、保育士と栄養士が互いに学び合う機会を用意する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	・歯磨き指導、手洗いうがい指導 ・手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、RSウイルス等の注意喚起
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11～3月頃・・・ノロウイルス・感染性胃腸炎 12～2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	コロナール細粒・・・1名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については3月26日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在12名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については3月26日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する
	実践予定内容	・子どもの声を傾聴し、子どもの興味関心から職員は黒子として時間や

		空間をデザインし、主体的に活動できる環境を用意していく。 ・生活や遊びの中で、今現在大人がやっちゃっていることを見直し、子どもが自分でできることは自分で行えるような導線や環境を考えていく。
2	計画・ねらい	異年齢での保育を十分に行える環境を設定する
	実践予定内容	・フロアの違いや安全面が異年齢での関わりを減少させる理由とならない様、職員同士の安全に対する認識を共有し、子どもの発達から環境の見直しを図っていく。 ・異年齢保育のメリットを全職員で共通認識を持ち、子ども同士が関わる機会を増やすように努める。
3	計画・ねらい	安全対策や衛生管理を全職員で徹底して行う
	実践予定内容	・子どもが安全に過ごすことができ、保護者も安心してお子様を預けられるよう整理整頓、清掃を徹底して行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	棚	園庭	毎週月曜日
2	箱椅子（13脚）	幼児室内	毎週月曜日
3	テーブル	園庭	毎週月曜日
4	梯子	倉庫	毎週月曜日
5	平均台	倉庫	毎週月曜日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の作成と届出 ・毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認 ・災害用の備品の管理と点検
2	ケガ、事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・事故報告簿、インシデント・ヒヤリハット報告書の検証 ・投薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・保育士の上級救命救急資格取得、エピペン講習
3	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不信者侵入訓練の実施 ・カメラ付きインターホンでの防犯対策 ・送迎者登録カードによる園児の引き渡し
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグの知識の習得 ・光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録



6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の人材育成を視野に入れ積極的に受入れを行い、保育の楽しさや重要性を実体験してもらう

1	実践予定内容	保育実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中、高生の体験学習の受け入れ
3	実践予定内容	小学生の保育体験受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権 ③ ケガ・ケーススタディ ④ 保護者対応ロールプレイング	・ 事故を振り返り (通年) ・ 人権研修 (マニュアル参照) ・ 事例から事故、ケガの原因と対策を検証 ・ 保護者対応検討
5月17日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解について	・ 受容的、応答的、対話的な関わり
6月14日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解について	・ 共主体から考える保育計画
7月12日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解について	・ ドキュメンテーション振り返り ・ 自身の取り組み報告
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	・ 小学校教諭を招いて、小学校指

		② 小学校指導要領読み込み	導要領 読み込み ・アプローチカリキュラムについて
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り ③ 全体研修	・上期の振り返りを行い、下期への取り組みへつなげていく ・全体研修動画視聴
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ 子どもの人権について ③ 子ども理解について	・人権研修（マニュアル参照） ・エピソード研修
11月8日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解について	・子どもの姿からチーム保育を振り返る ・自身の取り組み報告
12月13日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解について	・子どもの姿からチーム保育を振り返る
1月10日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 下期事業計画振り返り	・次年度に向けて一年の振り返り ・自身の取り組み報告

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校、幼稚園、老人ホーム訪問などを通して、近隣の方との交流を深め、地域に根差した保育園づくりをめざす。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	近隣小学校、幼稚園、老人ホーム訪問などを通して、近隣の方との交流を深め、地域に根差した保育園づくりをめざす。
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：佐伯山緑地にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム（はせさんず）訪問
異年齢交流	近隣幼稚園、保育園との交流、中学生、高校生の実習・職場体験の受け入れ
地域拠点活動	ちきんえっぐ、園庭開放、保育体験
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校訪問や子ども間交流を通して、就学に向けての安心感と期待感を持てるようにする。教スタッフ同士での交流、懇談により相互理解を深め、円滑な小学校接続が出来るようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	池上小学校 1年生	2名予定	授業参観	見学

8月頃	池上どろんこ保育園	15名予定	当園幼児保育室	職員間交流
2月頃	池上小学校 1年生	就学予定児	校内見学	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児在籍時は、個々の特性を捉え計画を立て、全スタッフで情報、対応を共有する。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：16名予定)

日々の観察をもとに経過報告、対応策を検討し、全スタッフが共通認識のもと保育にあたるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担任と新年度担任で年度末に引き継ぎし、継続した支援が行えるようにする。就学児に関しては幼保連絡会、要支援の場合は養護教諭や発達支援担当者との引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月25日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：佐伯山緑地にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

令和5年度2月受審済み

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である

自己評価開始予定時刻：16時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、クラスリーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：9月1日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、行動する子ども ・気持ちを伝えあう子ども ・クラスの垣根を越えたチーム保育
	振り返り	<p>環境構成を整え子どもたちが各々好きな場所で、好きなことをできるように努めた。子どもが自分のやりたいことやできることで、得意なことを友だちや保育士に伝え、自信を持って取り組める様子が増えた。</p> <p>また、友だちや地域の方たちに興味や関心が強くなり、会話や対話を重ね、他者と生きる力が育まれている。</p> <p>職員は園内研修などを通して、より密にコミュニケーションを取るようになり、多角的に子どもの援助を考えるようになっている。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の育ちや意欲を基盤とした異年齢保育に関わる環境作り ・子どもの姿を記録したり、話し合ったりする中で、保育の質を向上していく ・保育計画を作成する中で、子どもと大人の共主体を意識していく
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが十分に自己発揮できるように、大人の関わり方や保育の認識を語り、学び合うチームとする。 ・日課や基本保育活動等の中で、子どもの主体性が見られた場面等を記録し、共有や分析を行っていく。また、子どもとの振り返りの時間を用意し、興味、関心、意欲の芽を育てる。

		・子どもの育っている力や課題、心情から、環境や関わり方に何が必要かを考えて保育や計画を行う。
2025年度	目指す姿	・子どもが主体的に生活や遊びを考え、自ら行動していく ・子どもの発達を踏まえたドキュメンテーションなどを通して、保育士と保護者で共育での意識を高めていく
	重点施策	・子どもに生活を委ねていくために、必要に応じてファシリテートするなどの関わり方を考え、試行錯誤しながら実践していく。 ・子育てを保護者と共感していく中で、ドキュメンテーションなどを使い、子どもが成長している姿を伝えていく。
2026年度	目指す姿	・子どもが主体的に生活や遊びを考え、自ら行動していく ・保護者、地域各所に自身で法人の理念や自園の保育を伝えることができる
	重点施策	・子どもに生活を委ねていくために、必要に応じてファシリテートするなどの関わり方を考え、試行錯誤しながら実践していく。 ・社会や他業種、業界動向の把握に努め、将来に必要な力を育む保育を学ぶ姿勢を常態化する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：池上どろんこ保育園 施設長 鈴木 隆